

福 議 委 号
令和 8 年 1 月 2 8 日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

経済福祉常任委員会
委員長 佐藤 孝男

所管事務調査報告書の提出について

令和 7 年 1 2 月 1 6 日福島町議会定例会 1 2 月第 2 回会議において決定した、休
会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第 1 4 8 条の規定により、下記のとおり
報告する。

記

| | |
|---------|--|
| 調査事件 | 1 5 木質チップの活用状況について |
| 調査期間 | 令和 8 年 1 月 1 9 日 |
| 出席委員 | 委員長 佐藤 孝男 副委員長 小鹿 昭義 委員 平沼 昌平 委員 平野 隆雄 委員 溝部 幸基 |
| 委員外議員 | 議員 藤山 大 議員 木村 隆 議員 熊野 茂夫 |
| 出席説明員 | 町 長 鳴海 清春 副町長 小鹿 一彦 福祉課長 佐藤 和利 福祉課長補佐 吉澤 裕治 産業課長 福原 貴之 |
| 議会事務局職員 | 事務局長 鍋谷 浩行 主任 角谷 里紗 会計年度任用職員 熊谷 治子 |

[委員会意見]

調査事件 15 木質チップの活用状況について（令和 8 年 1 月 19 日調査）

木質バイオマスボイラーの燃料となる木質チップについては、令和 7 年度から町内業者が、生産供給するとしていたが、令和 7 年 1 月 10 日に行った所管事務調査において、現在も町外から購入しているとの説明があり、委員会として町に対し速やかに現状を確認し、町内業者の早期生産供給にむけ対処するよう意見を提出したところです。

そのような中で、町より、木質チップの活用状況について資料が示されたことから、その内容を調査したので調査結果を報告する。

【論点とした調査項目・意見】

町から示された木質チップの活用状況等については一定の理解をしたが、次の事項について検討されたい。

1 木質チップの活用状況等について

現在、町内産木材を使用した木質チップが温泉施設において十分に活用されていない現状にある。含水率の高さから想定以上の乾燥期間を要しているとの説明だが、現地を視察した際も感じたが、保管木材の自然乾燥状況把握とチップにした後の保管環境が含水率を適切に管理できる状況にないことが強く懸念される。

バイオマス燃料としての木質チップは、その品質（含水率）が燃焼効率やボイラーの維持管理に直結するものであり、今後、温泉施設へ良質な木質チップを安定的に供給するためにも、供給業者に対し適切な含水率を維持する保管環境の整備を強く指導されたい。

木質チップの活用は、町内未利用材の消費拡大のほか、CO₂ 排出削減や脱炭素計画の推進に重要な役割を担うことから、温泉以外にも町内全体で木質チップの活用増進を図る必要があると思慮するので、木質チップの利用によりどの程度 CO₂ 削減に寄与するのか具体的な数値を示しながら、町民に対し木質チップを広く周知・PR し、認知してもらうことが肝要と思慮するので検討されたい。

2 吉岡温泉の改修内容について

町から示された吉岡温泉の改修内容のうち特にサイロ室の改修については、施設の整備に先立って他町の施設を視察し、実際の運用にあたっての課題等も把握したうえで整備したことを考慮すると、設計の段階で検討・対応すべき視点ではなかったかと思慮する。特に、今回の改修には上げられていないが、チップ搬入口が狭くチップを搬入する際に手間がかかっていることや、搬入口を覆う屋根等が無い場合、チップの適切な管理に支障が出ることが懸念されるため、必要な措置を講ずる必要があると思慮するので検討されたい。